



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.42

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2008.春・夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



ヤマメ 写真:佐藤 成史

第30回企画展 『フィッシング — 魚の生態と人の知恵 — 』

開催 平成20年

期間 7月12日(土)~8月31日(日)

県の魚であるアユを求めて、大きな川には長い釣竿を振るう太公望の姿が見られます。アユ釣りは、おとりのアユをつけた友釣りが主流です。これは、川底の石についた餌の藻類を確保するため、時にはぶつかり合うほどの激しいアユの縄張り争いを利用した釣り方です。その他、なじみの深いフナ釣り、溪流釣り、フライフィッシングなど対象になる魚に合わせた多様な釣り方が考案され、道具や餌も魚の生態を知ることにより開発されてきました。企画展では、魚の生態や厳しくなった魚を取り巻く環境の変化だけでなく、標本でしか見つからなくなった幻の魚などもご紹介します。(学芸係 金井 英男)

◆ 企画展記念イベント ◆

謎の魚「クニマス」

— その生態と絶滅の背景 —

日時:平成20年7月20日(日)13:30~15:30

講師:杉山秀樹(秋田県水産振興センター所長)

新種の発見とはどういうことか

— 日本の魚類相の特徴から —

日時:平成20年8月9日(土)13:30~15:30

講師:中坊徹次(京都大学総合博物館教授)

特集

展示詳解

幻の魚たち

企画展「フィッシング―魚の生態と人の知恵―」

博物館では常設展示のほかに通常年3回の企画展を実施しています。今回は第30回企画展「フィッシング―魚の生態と人の知恵―」で展示される、2つの「幻の魚」についての展示詳解です。

幻の魚クニマス

田沢湖は秋田県の中東部に位置する湖で、日本で最も深い湖として知られています。「幻の魚クニマス」はこの田沢湖に生息していました。クニマス (*Oncorhynchus nerka kawamurae*) はサケの仲間の魚類で、見かけはヒメマスとよく似ています。しかし、^{ゆうもんすいすう}体色が黒くて、斑点がなく、幽門垂数がヒメマスより少ないという特徴を持っています（幽門垂とは胃から腸へ続く部分にある房状の器官で、消化酵素を分泌していると考えられています）。これらの特徴から田沢湖のクニマスは1925年にサケ科の新種として報告されました。

では、なぜクニマスは「幻の魚」なのでしょうか？それは、クニマスは新種として報告されてからわずか15年で姿を消してしまった魚だからです。開拓や発電事業のため、クニマスの生息していた田沢湖に強酸性である玉川の水が1940年に導入されました。その結果、田沢湖に生息していた魚類は大きな影響を受け、クニマスも絶滅したと考えられています。現在ではクニマスの標本は世界でわずかに十数個体しかありません。企画展では京都大学に保管されている貴重な標本を展示します。



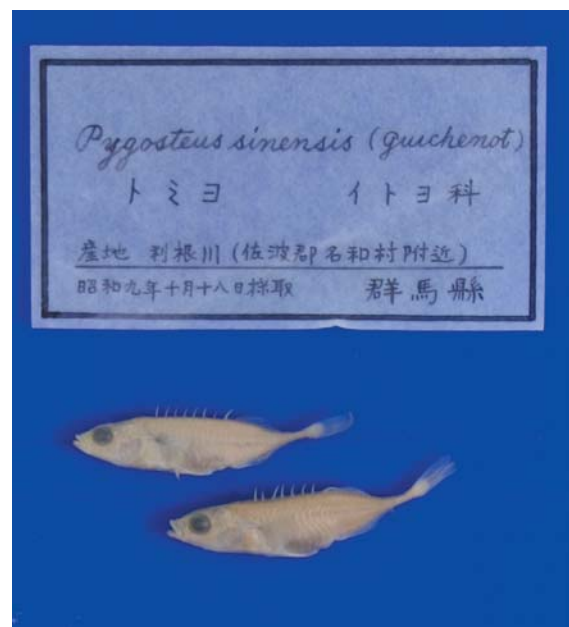
所蔵：京都大学総合博物館

幻の魚ムサシトミヨ

博物館では多くの方から様々な標本を寄贈して頂いています。今回紹介するもう一つの「幻の魚」は、元群馬大学教授の五味礼夫氏によって収集され、その後、当館に寄贈された標本の中から見つかりました。

ムサシトミヨ (*Pungitius sp.*) は“氷河時代の生き残り”ともいえる魚で、関東平野の湧水地に生息していたと考えられています。現在では埼玉県の熊谷市だけにしか生息していません。群馬県でも確実な分布の記録はありませんでした。

ところが五味氏により収集された標本のなかに群馬県で採集されたムサシトミヨがあったのです。採集地は「利根川（佐波郡名和村付近）」とされています。採集日は昭和9年10月17日なので、今から70年以上前の標本です。この標本によって初めて、群馬県にもムサシトミヨがかつては生息していたことがはっきりとわかりました。



企画展では他にもたくさんの標本によって魚の生態や、そのような生態を利用した釣りについて紹介をしています。ぜひ企画展「フィッシング―魚の生態と人の知恵―」にお越しくささい。

(学芸係 木村 敏之)

体験学習・スポット解説・ビデオ視聴の紹介

—— 学校で来館される方へ ——

博物館で学習する子どもたちに、関心を高めより深い内容を学習してもらうために、体験学習・スポット解説・ビデオ視聴のサービスを行っています。

それぞれの内容は以下のとおりですが、学習効果を高めるため事前に下見（実地踏査）をして、職員と事前打ち合わせをしていただくことが必要です。

1. 体験学習（館内授業）

実験室で体験学習を行うことができます。次の4種類のメニューがあります。

①化石のレプリカをつくろう（60分コース）

石こうを使ってアンモナイト等の化石のレプリカをつくります。レプリカは実物化石の複製なので細かいところまで観察することができ、より深くアンモナイト等について学ぶことができます。

②飛ぶタネの模型をつくろう（60分コース）

カエデやニワウルシ、東南アジアに生育するアルソミトラなどの飛ぶタネの模型をつくります。植物が子孫を残すため様々な方法でタネを散布することについて学ぶことができます。

③葉のパウチ標本をつくろう（60分コース）

モミジの葉のパウチ標本をつくります。当館の周りに生育する6種類のモミジの葉について、特徴や比較するポイントを学ぶことができます。

④植物化石をさがそう（90分コース）

ハンマーを使って岩石の中から植物の化石などを取り出します。化石の取り出し方や植物の葉の同定のポイントを学ぶことができます。



体験学習:化石のレプリカをつくろう

2. スポット解説

展示解説員が、一つの展示資料について詳しい解説を行います。解説を聴いていただく場所も考慮し、次の4種類のメニューを用意しています。

①カマラサウルス

実物化石で組み立てられたカマラサウルスを中心に、恐竜の歯と食性、骨格の特徴などについて解説します。

②キリンとアフリカゾウ

キリン骨格とゾウ頭骨の前で、キリンとゾウの骨格や生活の様子について解説します。

③絶滅に瀕している動物

人間の生活のために絶滅した、または絶滅の危機にある動物について解説します。

④タネのお話

植物のタネの役割やいろいろな運ばれ方について実物や模型を使って解説します。

3. ビデオ視聴

約100種類の科学系ビデオ作品の中から、選択して学習室の大型スクリーンで視聴できます。定員は96人です。



スポット解説:絶滅に瀕している動物

各サービスとも先着順となっています。お問い合わせやご希望の場合は教育普及係へご連絡ください。

(教育普及係 上原 久志)



収蔵資料より

板鼻層のカサガイ化石 アクマエア・ミトラ

2008年3月、国際学術雑誌に国立科学博物館の栗原行人、加瀬友喜の両博士による論文が発表され、板鼻層（後期中新世・約1000万年前）から見つかったカサガイ化石の中に、今まで北太平洋の西側では現生種・化石共に未発見だった種類が確認されました。これはアクマエア・ミトラ *Acmaea mitra* という種類で、殻の形と電子顕微鏡で観察された複雑な殻の構造が種類を決定する手掛かりになりました。

このカサガイは岩礁などで生活する種類で、現在、分布しているのはカリフォルニアからアリューシャン諸島、つまり北太平洋の東側だけです。板鼻層の化石は、この属の最も古い記録であると同時に、この種類が後期中新世に北太平洋の西側にもいた証拠です。しかし、なぜ北太平洋の西側だけで絶滅したのか、その理由は謎のままです。

(学芸係 高桑 祐司)



インフォメーション (6月～9月の予定)

- 第30回企画展「フィッシング—魚の生態と人の知恵—」 2008年7月12日(土)～8月31日(日)
 第31回企画展「きれいで不思議な貝の魅力」 2008年9月27日(土)～11月24日(月・祝)

6月 15日(日) 第2回自然史講座
 毎週土曜日 サイエンス・サタデー「マンモスの歯のレプリカをつくろう」
 23日(月)～7月1日(火) 燻蒸休館

7月 20日(日) 講演会「謎の魚 クニマス」～その生態と絶滅の背景～
 26日(土) 自然教室「アユの生態と友釣り」
 27日(日) ファミリー自然観察会「夏の昆虫観察会」
 毎週土曜日 サイエンス・サタデー「ガラスビーズを使った顕微鏡をつくろう」

8月 3日(日) 自然教室「フライフィッシングの世界」
 ～水生昆虫の生態とフライ(毛鉤)～
 9日(土) 講演会「新種の発見とはどういうことか」
 ～日本の魚類相の特徴から～
 16日(土)～17日(日) 自然史博物館探検隊
 24日(日) 自然教室「ぐんまの最高級ニジマス“ギンヒカリ”
 の開発と溪流魚の生態と釣り」
 毎週土曜日 サイエンス・サタデー「クルクル絵本でつくるアユの一生」

9月 毎週土曜日 サイエンス・サタデー「飛ぶタネの模型をつくろう」

利用案内

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
 ※6月23日(月)～7月1日(火)は、館内消毒のため臨時休館となります
- 観覧料 一般①500円/②700円、高校・大学生①300円/②400円
 ※①は通常料金、②は企画展開催時料金となります
 ※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介護者1名は無料
 ※有料者20名以上は団体料金で2割引となります

凡例

- ☎ 電話で申込み(1ヶ月前から先着順)
- ✉ 封書で申込み
- 👤 当日会場で申込み(先着順)



休館日

○印の日は休館いたします。

月	日	休館
6月	1 2 3 4 5 6 7	○
	8 9 10 11 12 13 14	○
	15 16 17 18 19 20 21	○
7月	22 23 24 25 26 27 28	○
	29 30	
	31	
8月	1 2 3 4 5	○
	6 7 8 9 10 11 12	○
	13 14 15 16 17 18 19	○
9月	20 21 22 23 24 25 26	○
	27 28 29 30 31	
	1 2 3 4 5 6	○
10月	7 8 9 10 11 12 13	○
	14 15 16 17 18 19 20	○
	21 22 23 24 25 26 27	○
11月	28 29 30	
	1 2 3 4 5 6	○
	7 8 9 10 11 12 13	○

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.42

編集・発行 群馬県立自然史博物館 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
 Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
 ホームページ <http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>

PRINTED WITH SOY INK! Demeterは、地球環境保全のため大豆インクを使用しています。